



The TEX Report

日刊原料・鉄鋼貿易

“ Web 閲覧システム ” の開始と E メール配信終了について

最新のニュースおよび統計を逸早く読者にお伝えするため、2013 年 1 月から情報の伝達手段を Web 閲覧システムに切り替えます。E メール版の購読者は 9 月 18 日から Web 閲覧システムをご利用できます。E メール配信サービスは 2012 年 12 月末で終了させていただきます。ご理解・ご協力をお願いします。

〔鉄鋼貿易〕	12 月積みアジア向け高炉線材、横ばいで決着 -----	3
	武漢鋼鉄、国内向け線材 12 月積みも値上げ -----	3
	中国の 10 月鋼材生産、前月比 1.7% 増の 8181 万トﾝ -----	3
〔石 炭〕	社告 “ 石炭年鑑 2012 年度版 ” を 8 月 6 日に発刊	
	Web 閲覧システムにモンゴル炭のトピックスを連載中	
	タタ・パワー社が BSSR 株式を 26% 取得 -----	5
	ヴァーレがモアティーズ炭の輸出を下方修正 -----	5
	台湾電力の 2012 年 1-6 月スポット入札実績 -----	10
	リライアンス P、石炭火力が相次いで運開へ -----	18
	トルコ、9 月のソース別原料炭輸入実績 -----	16
	HPCT、10 月の石炭輸出は 334 万トﾝに増加 -----	16
	DBCT、10 月の石炭輸出は 486 万 2 千トﾝ -----	16
	APCT、10 月の石炭輸出は 112 万 9 千トﾝ -----	18
	NSW 州、1 ~ 8 月の仕向け国別石炭輸出 -----	17
	〔税関別〕 2012 年 9 月の生石油コークス輸入実績 -----	14
〔鉄鉱石〕	社告：輸入鉄鉱石年鑑 2011 年度版 発刊！	
	ジンダルビー社、カララ DSO 輸出 30 万トﾝに迫る -----	6
	豪州の鉄鉱石 9 月輸出速報 -----	18
	バラ積み不定期船市況は弱含み -----	2
〔冷鉄源〕	関東鉄源入札、前月比 3,002 円急反発 -----	8
	H2 輸出商談、東南アジア向けが高値主導 -----	15
	8 月国内需給、月末在庫が 5 ヶ月連続で減少 -----	10
	東鉄、10 日から全工場で一律 500 円上げ -----	17
〔合金鉄〕	12 年 1-9 月期の西側モリブデン生産動向 -----	6
	ENRC 社、2012 年 7-9 月期の鉱石・合金鉄生産量 -----	12
	BHPB 社の中国向け Mn 鉱石価格、12 月積みも横ばい -----	20
	中国のシリコマンガン生産量、9 月は 85.32 万トﾝ -----	4
	中国国内のフェロシリコン生産量、9 月は 43.58 万トﾝ -----	20
	大平洋金属、平成 24 年度・中間期の連結業績 -----	4
	12 年 11 月 7 ~ 8 日 LME・ニッケル価格 -----	4
	12 年 11 月 7 ~ 8 日 LME のモリブデン・コバルト価格 -----	20
〔決 算〕	NSENGI、中間期連結決算は増収増益を達成 -----	14
	新日鐵住金の中間期連結操業実績 -----	13
	新日鐵住金の 2012 年度中間期連結決算 -----	8

株式会社 テックスレポート
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町 2-9 (大新ビル)

TEL 03-3233-0811 (代表)
FAX 03-3293-5289
E-mail: genryou@texreport.co.jp
URL: http://www.texreport.co.jp/

購読料 6 ヶ月 59,850 円
1 年 115,500 円 (消費税含む)
禁無断転載・コピー翻訳
土・日・祝祭日休刊

バラ積み不定期船市況は弱含み

= 西豪州鉄 16 万トンを積み中国向け船がトントン 9.00 ドル

[ケーブサイズ船]

< 西豪州 中国 >

リオ・ティント社は西豪州のダンピアで鉄鉱石 16 万トンを船積みする SPRING・BRIGHT 号(2010 年建造)を中国の青島向けにトントンあたり 9.00 ドル(1 日の港湾荷役積みスケールロード/揚げ 30,000 トン)で決めた。11 月 22-25 日に用船を開始する。

ティッセンクルップ社はカナダのセッティルで鉄鉱石 16 万トンを船積みする船主カーギル社の T B N(船名未定)をオランダのロッテルダム向けにロングトントンあたり約 7.50 ドル(港湾荷役積み揚げ通算 6 日間)で決めた。11 月 25 日 -12 月 8 日に用船を開始する。

< 豪州東岸 中国 >

ポラリス社は豪州東岸ダーリンブル・ベイで石炭 17 万トンを船積みする STELLA・ANITA 号(2012 年建造)を青島向けにトントンあたり 10.50 ドル(同 40,000 トン/25,000 トン)で決めた。11 月 10-25 日に用船を開始する。

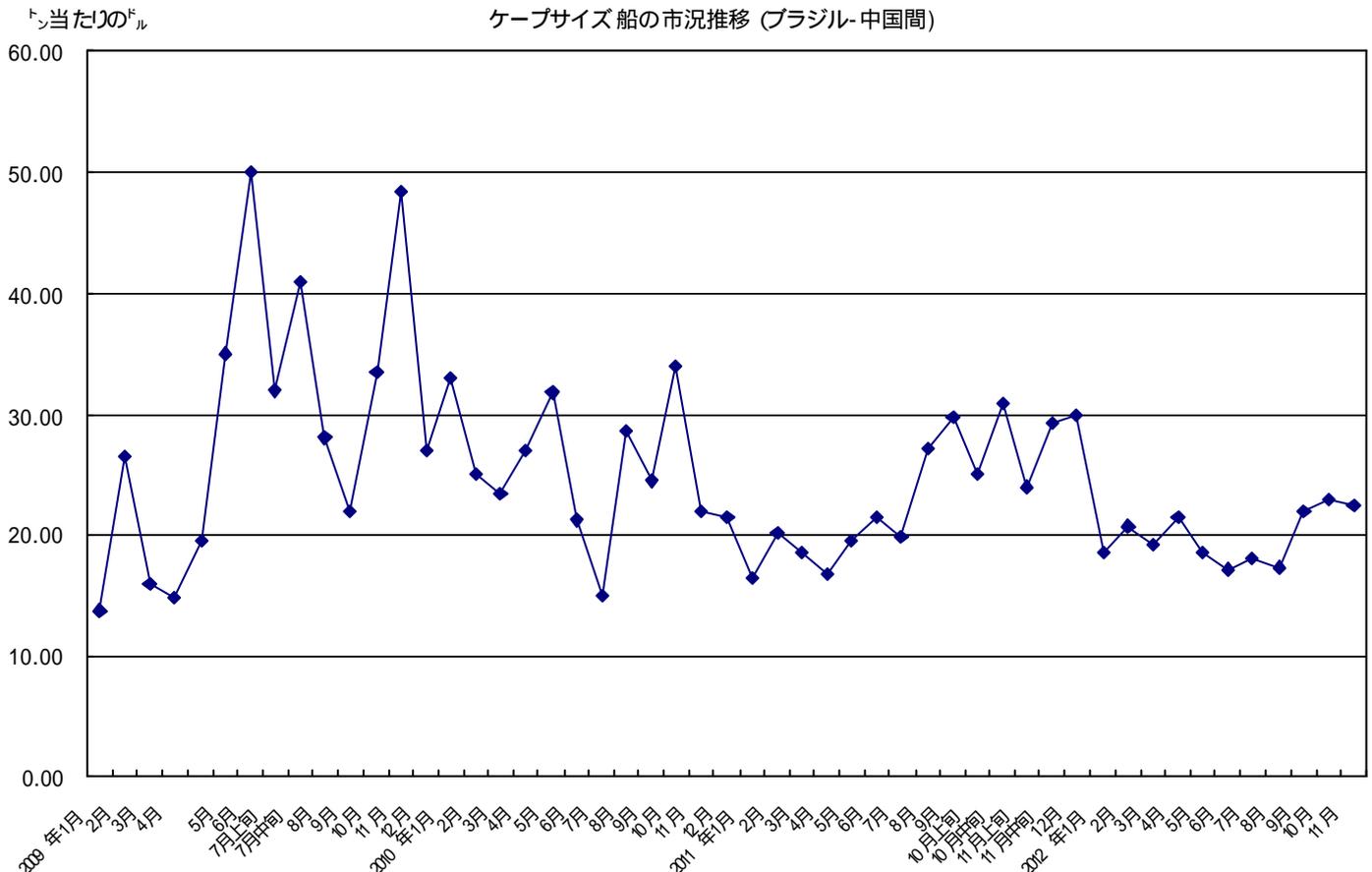
< コロンビア デンマーク >

ヴィトール社はコロンビアのプエルト・プロデコで石炭 15 万トンを船積みする T B N をデンマークのエンステッド向けにトントンあたり 12.00 ドル(同 25,000 トン/40,000 トン)で決めた。12 月 1-10 日に用船を開始する。

[オーバー・パナマックス型船]

< 豪州 中国 >

ノルウェー船主クラブネス社は ROSCO・LITCHI 号(82,000 DWT、2010 年建造)をタイムチャーターした。同船の引渡しを君津、返船を豪州のポートラッタ経由中国とするもので、1 日の用船料は 8,100 ドル。11 月 9-10 日に用船を開始する。



鉄 鋼 貿 易

12月積みアジア向け高炉線材、横ばいで決着

日本のアジア向け12月積み高炉線材商談がほぼ終了した。10月、11月が他の鋼材と同様に値下げとなったが、12月積みでは11月積みの横ばいで決まっている。線材も底入りしたことから来期では値上げを求める姿勢を固めている。

12月積み商談で中国ミルが中東など遠隔地向けで前月比40ドルアップが通ったと伝えられてきている。東南アジア地域でも10～20ドルの値上げを提示している模様で浸透することが予想されるところ。これに対し韓国のPOSCOは12月積みでも値下げしたものとみられ、この結果、10～12月期では50ドル前後の引き下げとなった模様である。

台湾のCSCも12月積み国内向け線材を1,300台湾ドル(43ドル)値下げしている。中国材など輸入材から国内需要を守るために値下げしたものだ。

こうしたなかで日本ミルは製品の値下げの限界にきていることを説明、需要家側も価格が底入れしたと判断し横ばいで合意したものだ。

中国向けは今期は数量でも苦戦した。日本からの中国向け線材輸出数量は9月積みで0.66万ト前で前月比45.6%減、前年同月比では75.7%減と落ち込んだ。10月以降もこの傾向が続いたとみられる。日系自動車の減産などが大きい、需要家を訪問できず商談が進まなかったことも要因の一つとなっているという。ただ、タイヤコードの場合、日本産以外のスチールコードではコードが途中で切れるケースが多くそのたびに生産が中断されるため、結局は日本品と生産性が違い過ぎることから早晩、日本品を再見直しし引き合いが復活することになりそうだ。

中国向けの減少をタイ、インドネシア向けがカバーした。タイの今年の自動車生産量は120万台に達する見通しで前年比5割増しが予想されるという。インドネシアも110台と同2割増となる見通しだ。両国とも自動車が好調なことから高炉線材需要も堅調。1月以降もこの傾向が続く見通しである。

韓国や台湾向けは今期では期末(12月決算)のために在庫調整に入っていた。しかし、これも12月で終わるものとみられ、来期からは引き合いが増加することが見込まれる。このため、日本ミル各社は来期からは他の鋼材を牽引するためにも値上げを実施する。値上げ幅は1～2週間以内に固める模様。

<Web閲覧システムには11月9日15時38分に掲載>

武漢鋼鉄、国内向け線材12月積みも値上げ

関係筋が得た情報によれば、中国の武漢鋼鉄は国内向け線材価格を12月積みでも値上げした。11月積みではタイヤ用スチールコードを150元(24ドル)アップとし、このほかは横ばいとしていた。12月積みではスチールコードを300元(48ドル)アップとし、他の汎用線材も50元(8ドル)値上げしている。スチールコードに関しては2ヶ月連続の値上げで合計450元(72ドル)もの値上げを実施したことになる。

宝山鋼鉄の12月価格はまだ打ち出されていない模様。だが、11月積みでは武漢と同様にスチールコードを150元値上げ(その他の線材は横ばい)しているだけに今回も同じような上げ幅で追随との見方を日本ミルはしている。<Web閲覧システムには11月9日15時41分に掲載>

中国の10月鋼材生産、前月比1.7%増の8181万ト

中国国家统计局が9日発表したところによれば、同国の10月における鋼材生産数量は8,181万ト前で前月比1.7%増、前年同月比では11.7%増と高い水準となっている。1日当たりの生産量は263.9万ト前で前月(268.1万ト)に比べ1日当たり4.2万ト減である。だが、今年では7回目の8,000万ト台だ。この結果、1～10月の累計生産数量は7億8,945万トとなり、前年同期比6.3%増となっている。

(次頁につづく)

10月の粗鋼生産数量は今週中にも発表されるが、日産量が199万ト台と前月(193万ト)よりも増加しており3ヶ月ぶりに6,000万ト台に乗ることが予想される。

いずれにしても高い生産水準が続くことから再び過剰生産、過剰在庫となることが懸念され、上昇し始めた鋼材市況の足を引っ張りかねないところだ。

<Web閲覧システムには11月9日17時10分に掲載>

大太平洋金属、平成24年度・中間期の連結業績

= 前年同期比では売上高66%増収となるも純損失は拡大

大太平洋金属は9日、平成24年会計年度・中間期(平成24年4月1日～9月30日)の連結業績を発表した。詳しくは別表の通り。

これによると同社の主力事業であるフェロニッケルの需要は、内外のステンレス鋼業界が調整局面から脱せず足踏み状態にあることから、伸び悩みの状況での推移となっている。この中で、同社の販売価格は低下となったが販売数量は大幅な増加となった結果、当期の連結売上高は前年同期比66.4%の大幅増収になった。損益については、特別損益として主に震災関連の補助金収入504百万円及び繰延税金資産の取り崩し等3,590百万円によって同期の純損失は2,298百万円に拡大した。

(T・斉藤)

平成24年会計年度 中間期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成24年度 中間期 連結業績	27,783	311	1,088	2,298
平成23年度 中間期 連結業績	16,698	1,098	3,074	483

<Web閲覧システムには11月9日17時17分に掲載>

中国のシリコマンガン生産量、9月は85.32万ト

= 前月比13%の増産、雲南省や貴州省の増産が寄与

中国国家统计局の発表によると、中国国内のシリコマンガン生産量は2012年9月に85.32万トを記録したことが明らかとなった。8月の生産量は75.48万トと発表されていたことから前月比は13.0%の増産になっている。

主要地区別に見ると、南方地域の中で電力価格の引き下げが実施された雲南省(9月実績5.79万ト)や貴州省(同13.53万ト)は前月に比べ増産となり、総生産量を押し上げるのに寄与した一方、最大の生産地である広西自治区(同25.06万ト)は減産となった様子だ。また西北地域の内モン自治区(同5.30万ト)と甘肅省(同3.68万ト)および寧夏自治区(3.74万ト)も前月から減産となっている。

なお、国家统计局では1-8月までの実績を修正しており、これまで発表された単月の累計と今回の1-9月期累計には差が生じている。

(T・斉藤)

<Web閲覧システムには11月9日15時47分に掲載>

12年11月7～8日 LME・ニッケル価格

LME ニッケル価格(カソード)

出来高		現物		3ヵ月先物		2013年12月
		前場(Ask)	後場(Ask)	前場(Ask)	後場(Ask)	前場(Ask)
11月7日	封度換算価格	* \$ 7.257	\$ 7.235	\$ 7.271	\$ 7.257	\$ 7.369
	トン 当たり	* \$ 16,000	\$ 15,950	\$ 16,030	\$ 16,000	\$ 16,245
11月8日	封度換算価格	* \$ 7.239	\$ 7.282	\$ 7.255	\$ 7.303	\$ 7.353
	トン 当たり	* \$ 15,960	\$ 16,055	\$ 15,995	\$ 16,100	\$ 16,210

LME ニッケル在庫、2012年11月7日 130,764トン (前日対比 +264 MT)

* 印はセツルメント価格

<Web閲覧システムには11月9日11時43分に掲載>

タタ・パワー社がBSSR株式を26%取得

= AGM炭をムンドラ発電所などに供給

インドのタタ・パワー社(Tata Power Company Limited)が、インドネシアの石炭会社であるパラムルチ・サクセサラーナ社(PT Baramulti Saksessarana Tbk:BSSR)株式を26%取得した。100%子会社であるコーポリ・インベストメント社(Khopoli Investment Limited)を通じてBSSR株式を買収したものの。

BSSR社は、インドネシアで石炭事業を展開するパラムルチ・グループの系列企業であり、南カリマンタン州でAGM(Antang Gunung Meratus)炭鉱を操業中である。同炭鉱の生産炭種は低硫黄・低灰分の亜瀝青炭(AGM炭)で、2012年の生産予定量は300万トン。同炭鉱では拡張によって2014年末までに石炭生産量が700万トン/年に引き上げられる計画だ。

さらにBSSR社は東カリマンタン州でBSSR炭鉱を保有する。同炭鉱では2014年末までに150万トン/年の石炭生産が見込まれる。

タタ・パワー社は7月下旬に、BSSRの100%子会社であるAGM社(PT Antang Gunung Meratus)とAGM炭の長期供給契約を締結しており、この時点でタタ・パワー社がBSSR株式を最大26%取得することが両社の間で合意されていた。

AGM炭は、タタ・パワー社がグジャラット州において建設中であるムンドラ石炭火力発電所(Mundra Ultra Mega Power Plant:Mundra UMPP)などに燃料として供給される。

ちなみにムンドラ発電所の総出力は400万kWで、出力80万kWのユニットが5基建設される。うち1~3号機は既に商業運転を開始している。

タタ・パワー社は既に、ブミ・リソース社(PT Bumi Resources Tbk)傘下の大手石炭会社であるカルティム・プリマ・コール社(PT Kaltim Prima Coal:KPC)およびアルトミン・インドネシア社(PT Arutmin Indonesia)の株式を各30%保有する。

タタ・パワー社は今後、KPC社とアルトミン社から計1000万トン/年の石炭を長期契約ベースで調達する。

既報のように11月8日には出光興産がBSSR株式を3%取得している。(宮元)

<Web閲覧システムには11月9日10時53分に掲載>

ヴァーレがモアティーズ炭の輸出を下方修正

= セナ鉄道の輸送能力不足が足枷に

ブラジルのヴァーレ(Vale S.A.)は9日(現地時間の8日)、モザンビークの新規原料炭炭鉱であるモアティーズ(Moatize)炭鉱からの2012暦年における石炭輸出が260万トンとどまる見通しを明らかにした。同社は8月時点で、2012暦年の石炭輸出予定量を460万トンに設定していた。

ヴァーレがモアティーズ炭鉱からの石炭輸出を下方修正したのは、セナ鉄道(Sena Railway)の輸送能力不足が足枷となって、現状では同炭鉱で生産した強粘結炭をベイラ(Beira)港へ大量に貨車輸送できないためである。

既報のようにセナ鉄道では現在、能力増強工事が進められている。2012年内には同工事が終了し、同鉄道の石炭輸送能力は650万トン/年に増加する。

ヴァーレは2013暦年には、セナ鉄道の石炭輸送能力が増加することを受け、ベイラ港から490万トンの石炭を輸出する計画である。

ちなみにモアティーズ炭鉱では2012年1~9月に280万1千トンの石炭が生産された。炭種別の生産量は原料炭が185万3千トン、一般炭が94万8千トンとなっている。(宮元)

<Web閲覧システムには11月9日16時47分に掲載>

ジンダルビー社、カララDSO 輸出 30万トに迫る

= 年内にマグネタイト精鉱の輸出を計画

豪州のジンダルビー・メタルズ社は8日、西豪州カララ鉄鉱石プロジェクトから船積み出荷した鉄鉱石の数量が30万トに迫った。7日にジェラルトン港のカララ輸出ターミナルからM.V.ENERGY・ROSE号が5万9164トのヘマタイトDSO鉄鉱石を船積み出航し、先月17日の初出荷からの累計出荷量は29万3033トに達した。

ティム・ネッチャー社長は、「3週間に満たない間にカララDSO鉄鉱石を船舶5隻の出荷を完了、インフラとロジスティック・チェーンが良好に機能していることを確認できた」などとしている。同社では鉄道網、在庫近傍、港湾運営などインフラ、ロジスティック・チェーンの整備を終え、ヘマタイトDSO鉄鉱石の輸出に続き、年内にマグネタイト精鉱の輸出を行なう計画だ。

<Web閲覧システムには11月9日14時12分に掲載>

12年1-9月期の西側モリブデン生産動向

= 市況低迷で大手モリブデン鉱山の減産体制続く

2012年7-9月期の西側における大手モリブデン生産者のモリブデン精鉱生産は、年初以来顕著化している減産傾向が同期(7-9月)も継続している様子を再確認する結果となった。本年の四半期別モリブデン精鉱の生産動向は、1-3月期:69.28百万封度(Mo純分)、4-6月期:67.58百万封度、7-9月期66.92百万封度となっている。累計で1-9月期の生産は203.78百万封度となる。

この減産傾向の要因として、需要面のベースとなる世界の粗鋼生産が前年比でほぼ横ばい基調にあることや、モリブデンの国際市況が年初以来、下落の一途を辿っていることが挙げられ、このことがモリブデン生産者に増産を躊躇させている。

モリブデンの国際市況は8月にトレーダーによるショート・セール攻勢で酸化モリブデンが封度当たり10.90米ドルと急落、11ドル割れの事態に遭遇した。これは3年振りの安値に沈んだことを意味する。生産者側は需給構造の建て直しに迫られている。2012年1-9月期の酸化モリブデン平均価格は封度当たり13.14ドルで、2011年(通年)の15.33ドルを下回った。

酸化モリブデンの国際相場はその後、封度当たり11ドル台を回復したが、急激な相場上昇は無く一進一退の成り行きである。大手生産者の一部は市況を注視して増産に慎重な姿勢を取っている。その代表が2012年5月から新規鉱山であるクライマックス鉱山(露天掘り)を稼働させたフリーポート・マクモラン社である。年間30百万封度の生産能力を保有する同鉱山の生産に関して、同社では2013年の生産は20百万封度を目指すとしているが、これも市況動向を見極めて最終決定するとコメントしている。

ただ、南米のモリブデン生産者は銅生産の副産物としてモリブデン精鉱が副生するため、一部の生産者は増産基調にある。2012年、大手のコデルコ社はチュキカマタ鉱山をはじめとした各鉱山での生産が低水準で、年産量44百万封度と2011年(51百万封度)に比べ14%の大幅減産が予想されている。このため南米全体の生産の伸びは希釈されているが、ペルーのSCC、チリのアントファガスタ社では銅生産の増加に伴いモリブデンも増産基調にある。

西側の大手モリブデン鉱山による2012年のモリブデン生産状況は以下の通りである。

(1) ケネコット社 = ピンガム・キャニオン鉱山における粗鉱品位の低下で、年初以来減産が続いている。2012年1-9月期の生産は18.30百万封度と前年同期の24.91百万封度を下回った。2013-2014年もなお低水準な生産が続く見込みで、生産の回復は増産計画が整備される2015年と見込まれている。

(次頁につづく)

(2) フリーポート・マクモラン社 = 米国コロラド州のクライマックス鉱山は2012年5月から生産を開始したが、4-6月期、7-9月期の生産はそれぞれ1百万封度と抑制された形であった。2013年は20百万封度生産を標榜しているが、本格生産への移行は市況次第とコメントしている。南米ペルーのCerro Verde 鉱山(兼業鉱山)は7-9月期で2百万封度の生産と抑制気味だが、2016年には年間15百万封度の生産を予定しており、今後は銅生産の増産体制に同調してモリブデンも増産へ移る公算が大きい。ただ、同社は米国にSierrita 鉱山など兼業鉱山を保有しており、兼業鉱山の生産状況によっては専業鉱山で調整が行われる可能性もある。

(3) トンプソン・クリーク・メタルズ社 = 11月8日時点では7-9月期の決算がまだ発表されていないが、同社は先頃米国アイダホ州のトンプソン・クリーク鉱山第8ピットでの剥土作業を中止して足元での投下資本を節約、これにより生産コストの削減に注力するとしている。2012年の年産量はカナダBC州のエンダコ鉱山を含めて23百万封度と予想され、2011年の28百万封度を大きく下回る。

(4) コデルコ社 = 2012年の生産量は44百万封度と予測され、2011年の51百万封度を大きく下回る。2013年には57百万封度へ回復する見通しである。

(5) アンタミナ社 = モリブデンの生産が伸び悩んでいるのは粗鉱石品位の低位化のためで、モリブデン回収率も低下している。

(6) グルポ・メヒコ社 (=SCC) = 2012年7-9月期の生産は前期比で、Toquepala 鉱山が38%減産、La Caridad 鉱山が12%増、Cuacone 鉱山が8%増産であった。7-9月期合計では9.85百万封度と前期比減産になっている。ただしモリブデン回収率は向上した。同社では2013年生産を54百万封度と計画している。

(7) アントファガスタ社 = 傘下のモリブデン鉱山のうちLos Palambres 鉱山の7-9月期生産は6.61百万封度で、1-9月期生産は20.9百万封度と前年同期比30%の増産を記録した。

(齊藤)

西側世界のモリブデン鉱山の生産状況

(単位：100万封度、MoS₂、Mo純分)

国 別	期 別	2012年			2012年	2011年	2010年
		1-3月期	4-6月期	7-9月期	1-9月期	1-12月期	1-12月期
◇北 米							
・Kennecott (Bingham)		7.06	5.73	5.51	18.30	30.21	28.46
・Freeport McMoran Copper (Henderson)		21.00 (9.00)	20.00 (8.00)	21.00 (9.0)	62.00 (26.0)	84.00 (40.0)	72.00 (40.00)
(Climax)		(0.00)	(1.00)	(1.0)	(2.0)	(0.0)	(0.00)
(Bypro North American)		(10.00)	(9.00)	(8.0)	(27.0)	(34.0)	(25.00)
(Bypro Cerro Verde)		(2.00)	(2.00)	(2.0)	(6.0)	(10.0)	(7.00)
・Thompson Creek Metals (Thompson Creek, Endako)		4.40	4.12	* 4.0	12.52	28.34	32.6
・Highland Valley Copper		2.17	2.60	2.70	7.47	7.90	7.5
◇北米小計		34.63	32.45	33.21	100.29	150.45	140.50
◇南 米							
Codelco		* 11.25	* 11.25	* 11.25	* 33.75	50.71	48.50
Antamina (Antamina)		3.38	3.02	3.00	9.40	11.09	7.50
SPCC(Southern Copper Corp.)		10.19	10.33	9.85	30.37	40.94	45.29
Antofagasta (Los Pelambres)		6.83	7.53	6.61	20.97	21.82	19.43
Xstrata (Collehusi)		* 3.00	* 3.00	* 3.00	* 9.00	14.00	12.00
◇南米小計		34.65	35.13	* 33.71	* 103.49	138.56	132.60
◇西側生産合計		69.28	67.58	* 66.92	* 203.78	289.01	273.18
◇酸化Mo平均価格(\$/lb)		\$ 14.10	\$ 13.65	\$ 11.67	\$ 13.14	\$ 15.33	\$ 15.60

* 年間生産見込みからの期別割り出し <Web 閲覧システムには11月9日16時17分に掲載>

新日鐵住金の2012年度中間期連結決算

= 事業用資産の減損処理と有価証券売却損で最終赤字

新日鐵住金は9日、2012年度中間期連結決算を発表した。両社統合前、最後の個別業績となる今回の決算で新日鐵、住金とも経常利益はそれぞれ195億4500万円、108億1500万円を計上したが、最終損益ベースではそれぞれ1766億5900万円、1338億4900万円の大幅な赤字を計上した。新日鐵は広畑、堺など、住金は子会社の各事業用資産の減損損失処理と、両社とも株式市場の低迷で投資有価証券売却損を特別損失として計上した。

一方、統合会社は、「経営統合後3年程度を目途に年率1500億円規模の統合効果の実現を目指す」(2011年9月)としたが、事業環境悪化リスクを織り込み、500億円上乗せし年率2000億円の統合効果を目指す。

統合会社の連結有利子負債残高は2兆7000億円程度。有利子自己資本比率(D/Eレシオ)は1.3程度となり、「約3000億円規模の資産圧縮を実行し早期に財務体質の改善を図りたい」(本部副社長)と述べた。

新日本製鉄の連結業績

100万円

	2012年度見通し			2011年度実績			(a)/(b) %
	4-6月期 実績	上期 e)実績	通期	4-6月期 (b)	上期 (b)	通期	
売上高	960,684	1,918,288	-	985,548	2,027,801	4,090,936	-5.4%
営業利益	(6,268)	2,631	-	38,591	64,406	79,364	-
経常利益	9,284	19,545	-	57,015	94,211	143,006	-79.3%
純利益	(87,530)	(176,659)	-	29,090	48,775	58,471	-
配当	-	-	-	-	1.5円	2.5円	-

()内は損失

住友金属の連結業績

100万円

	2012年度見通し			2011年度実績			(a)/(b) %
	4-6月期 実績	上半期 e)実績	通期	4-6月期	上期 (b)	通期	
売上高	341,914	693,601	-	306,899	692,215	1,473,367	+0.2%
営業利益	(11,212)	15,759	-	16,804	41,268	76,801	-61.8%
経常利益	(11,065)	10,815	-	19,059	41,370	60,803	-73.9%
純利益	(20,000)	(133,849)	-	3,255	(32,387)	(53,799)	-
配当	-	-	-	-	1.0円	2.0円	-

()内は損失

<Web閲覧システムには11月9日17時28分に掲載>

関東鉄源入札、前月比3,002円急反発

= H2ベース25,643円(FAS)、3ヶ月ぶり上昇

関東地方の鉄スクラップ業者で組織する関東鉄源協同組合(理事長=山下雄平・ヤマシタ社長)は9日、11月契約(船積み期限1月15日)輸出向け鉄スクラップ販売競争入札を実施し、平均落札価格はH2ベースト当たり25,643円(FAS、以下同じ)の高値を付けた。前月と比べ3,002円(13.3%)大幅高で、落札価格の上昇は3ヶ月ぶり。

落札はA社=25,830円(数量9,000ト)、B社=25,590円(6,000ト)、C社=25,370円(5,000ト)の3件で合計20,000ト。

応札は14社から29件寄せられ、2社は辞退した。応札数量は164,000トと、前月比34,000ト(26.2%)増加。応札数量は2009年1月の166,500トに次ぐ過去2番目の高水準だった。このうち上位13件(合計81,000ト)が25,000円以上を付け、一方、応札最安値は22,200円。1番札の9,000トのほかに、1万トの大型の応札は4件あった。

山下理事長はこうした結果に対し「7日の役員会では(応札価格は)24,000円が出れば良いとの話しだった。予想をはるかに上回る価格で、聞いていた輸出FOB成約価格をも上回る高値だった」と驚きを隠さず、「役員会では先行き強気に見ている人が76%いたので、ある程度の値上げは予想していたが、結果は我々の想定を大きく上回るものだった」などと感想を語った。

(次頁につづく)

大幅反発した背景については「先週(5日の週)の米国コンポジット価格が前週比40ドル以上跳ね上がった影響が大きい。コンポジット価格の上昇の理由を聞くと、ハリケーンの影響が指摘されている。とするとハリケーンがこの入札にも多大な影響を与え、国内電炉メーカーにも想定外のインパクトをもたらした形だ」と説明した。

また、落札価格は9月に前月比2,036円、10月に同3,291円と過去2ヶ月で合計5,327円下落していることを踏まえ、「今月はこの半値を戻したことになる。相場格言どおり、半値戻しで上昇が終わるのか、それとも長続きするのかはどちらとも言い難い。ただ、今回の上昇は短期的との見方が多く、業界内でもそういう感触を持っている人が多かったが、落札単価がここまで跳ね上がると(相場観は)少し変わるかもしれない」と指摘し、相場先行きについては「来週(19日の週)には組合の船積みが予定されているため、23日からの連休までは相場はこのまま強気でいこう。あとはメーカーがどれくらい在庫を持っているか(が問題)だ」との見方を示した。

落札の向け先に関しては「韓国が買っていないのはわかっているので、米国スクラップを普段、買っているところが、米国産と日本産との価格の比較で日本スクラップを買ってきているのだろう」と述べ、東南アジアの可能性があると指摘した。

2012年輸出向け鉄スクラップ販売入札の結果

(価格はいずれもFAS)

組合	入札日	落札商社/価格	積み期	数量(MT)	向け先
関東	3月9日	産業振興・・・¥32,700	4月	5,000	韓国
		JFE商事・・・¥32,500		5,000	中国
		丸紅テツゲン・・・¥32,410		5,000	中国
		JFE商事・・・¥32,400		10,000	中国
関西	3月15日	JFE商事・・・¥33,520	3-4月	5,000	中国
関東	4月11日	阪和興業・・・¥33,050	5月	3,000	韓国
		扇谷・・・¥32,650		5,000	中国
		産業振興・・・¥32,530		10,000	韓国
関東	5月10日	草野産業・・・¥31,550	6月	3,000	韓国
		産業振興・・・¥31,550		5,000	中国
		阪和興業・・・¥31,530		3,000	ベトナム
		産業振興・・・¥31,510		5,000	韓国
		産業振興・・・¥31,470		5,000	韓国
関東	6月12日	メタルワン建材・・・¥26,560	7月	5,000	タイ
		アラ工商会・・・¥25,580		3,000	韓国
		メタルワン建材・・・¥25,320		5,000	韓国
		扇谷・・・¥25,300		5,000	韓国
関西	6月12日	住金物産・・・¥25,360	6-7月	5,000	韓国
関東	7月11日	岡谷鋼機・・・¥25,850	8月	5,000	韓国
		JFE商事・・・¥25,800		5,500	ベトナム
		岡谷鋼機・・・¥25,780		3,000	韓国
		アラ工商会・・・¥25,700		5,000	韓国
		扇谷・・・¥25,700		5,000	韓国
関東	8月9日	産業振興・・・¥28,200	9月	5,000	韓国
		産業振興・・・¥28,000		5,000	韓国
		産業振興・・・¥27,850		5,000	韓国
		産業振興・・・¥27,820		5,000	韓国
大阪	8月21日	アラ工商会・・・¥29,100	9月	3,000	韓国
関東	9月11日	産業振興・・・¥26,200	10月	3,000	ベトナム
		産業振興・・・¥26,000		3,000	ベトナム
		三井物産メタルズ・・・¥25,960		5,000	韓国
		産業振興・・・¥25,800		5,000	韓国
		産業振興・・・¥25,770		3,000	ベトナム
関西	9月20日	JFE商事・・・¥24,500	10月	3,000	韓国
		岡谷鋼機・・・¥24,300		3,000	韓国
関東	10月11日	産業振興・・・¥22,800	11月	5,000	-
		丸紅テツゲン・・・¥22,660		6,000	インドネシア
		JFE商事・・・¥22,550		5,000	ベトナム
		住金物産・・・¥22,550		5,000	ベトナム
関西	10月24日	住金物産・・・¥23,650	11月	5,000	ベトナム
関東	11月9日	A社・・・¥25,830	12月	9,000	-
		B社・・・¥25,590		6,000	-
		C社・・・¥25,370		5,000	-

関東=関東鉄源協同組合、関西=関西鉄源連合会、大阪=大阪金属リサイクル工業協同組合

<Web閲覧システムには11月9日16時07分に掲載>

台湾電力の2012年1-6月スポット入札実績

= 落札数量は半年で前年の実績と並ぶ

台湾電力が2012年1～6月に実施した一般炭のスポット競争入札のうち、分かっているだけでも720万トンが落札されている。2011暦年の実績が720万トンであったことから、2012年は半年で前年の実績と並んだことになる。

落札された石炭のうちほとんどがインドネシア炭で、米国炭なども落札されている。落札数量が最も多いサプライヤーはアドバンス社(Advance Trading)で、210万トンを供給している。

台湾電力が2012年1-6月に実施した入札詳細は別表のとおり。なお、台湾電力が設定したシーリング価格を超えてしまい全量がキャンセルとなった入札は省略している。(草薙)

Jan -Jun, 2012											
Bid No.	TPC10105 -GS	TPC10106 -GS	TPC10101 -LS	TPC10107 -GS	TPC10108 -GS	TPC10109 -GS	TPC10102 -LS	TPC10110 -GS	TPC10103 -LS	TPC10111 -GS	Total
Closing Date	Jan 01, 12	Feb 02, 12	Feb 02, 12	Mar 05, 12	Mar 29, 12	May 04, 12	May 04, 12	May 24, 12	May 24, 12	Jun 28, 12	
Shipment	Mar,12- Jul,12	Mar,12- Jun,12	Mar,12- Jun,12	May,12- Aug,13	Jun,12- Sep,12	Jun,12- Dec,12	Jun,12- Dec,12	Jun,12- Nov,12	Aug,12- Dec,12	Jul,12- Dec,12	
Tender Tonnage	1,125,000	1,125,000	600,000	1,125,000	1,275,000	1,125,000	375,000	135,000	375,000	1,125,000	9,135,000
Winning Tonnage	450,000	1,125,000	600,000	975,000	450,000	825,000	300,000	135,000	75,000	1,050,000	5,985,000
Cancelled Tonnage	675,000	0	0	150,000	825,000	300,000	75,000		300,000	75,000	3,150,000
Winner											
Right Link Industry								450,000			450,000
Vitol Asia	75,000					150,000					225,000
PT Berau Coal								225,000		150,000	375,000
Advance Trading		525,000		450,000	225,000	375,000		75,000		450,000	2,100,000
Peabody Coaltrade			150,000				225,000				375,000
Tiger Energy Trading										300,000	300,000
Flame	75,000	300,000		225,000		150,000					750,000
Efficiency	150,000				75,000	75,000		225,000	75,000	75,000	675,000
PT Kideco Jaya Agung			225,000								225,000
Universe Marine & Trading				225,000	150,000			75,000			450,000
Nefill Energy Resources			150,000								150,000
LG International	150,000			75,000		75,000		150,000		75,000	525,000
Glencore International		300,000	75,000					225,000			600,000
Total	450,000	1,125,000	600,000	975,000	450,000	825,000	300,000	1,350,000	75,000	1,050,000	7,200,000
Eva. C&F (US\$)	-	124.93 ~127.00	124.44 ~128.00	118.00 ~119.50	-	117.36 ~117.50	117.22 ~117.50	-	-	96.38 ~101.00	-

<Web 閲覧システムには11月9日10時29分に掲載>

8月国内需給、月末在庫が5ヶ月連続で減少

経済産業省がまとめた8月の統計月報によると、同月の国内鉄スクラップ需給は、夏季減産期に当たるため購入と消費がともに前月と比べ落ち込んだ。ただ、購入が前年同月比およそ1割減少した一方、消費量は同2.5%のマイナスにとどまるなど底堅かったため、月末在庫は5ヶ月連続で減少している。

購入をみると、大宗を占める炭素鋼が前年同月比9.3%減の178.9万ト。前月比では6.4%減少し、2ヶ月連続で200万トを下回った。これに合金鋼=8.5万ト(前年同月比14.5%減)、鉄屑=3.8万ト(同8.7%減)を加えた合計は191.2万ト。前年同月比9.5%減少し、前月比では6.8%のマイナスとなった。

自家発生は、炭素鋼が77.8万トとなり、前年同月比で7.8%、前月比で2.8%それぞれ減少した。

これに対し、消費は転炉の炭素鋼消費が81.1万トと、前年同月比6.0%減少。引き続き前年を下回って推移しているものの、前月比では4.8%プラスと増加基調にある。

電炉の炭素鋼消費は172.0万ト。前年同月比1.3%減と小幅なマイナスにとどまったが、前月比では10.6%減と1割落ち込んだ。

この結果、製鋼用の合計消費量は279.7万トとなり、前年同月と比べ2.5%減少。前月比では5.7%のマイナスとなった。

(次頁につづく)

消費に比べ購入の落ち込みが大きかったことから、炭素鋼の8月末在庫は260.7万トとなり、前年同月比3.2%減少。前月比では5.2万ト(2.0%)のマイナスと、在庫量は3月をピークに5ヶ月連続で減少している。

日本の鉄スクラップ需給実績(2012年8月)

	受入れ									
	国内購入				その他			自家発生		
	炭素鋼	合金鋼	銑屑	合計	炭素鋼	合金鋼	銑屑	炭素鋼	合金鋼	銑屑
09年	19,407	780	515	20,707	1,097	117	35	8,099	1,038	332
10年	26,145	1,176	600	27,923	1,360	166	48	10,013	1,457	340
11年	25,769	1,157	520	27,465	1,070	227	38	9,820	1,556	390
前年比(%)	-1.4	-1.6	-13.3	-1.6	-21.3	36.6	-20.7	-1.9	6.8	14.7
2011年1月	1,981	93	41	2,115	106	19	4	848	126	30
2月	2,201	92	49	2,361	109	18	4	803	128	23
3月	2,457	110	46	2,613	106	20	4	857	138	27
4月	2,306	102	40	2,448	88	20	4	768	122	32
5月	2,046	98	41	2,185	90	17	2	793	128	30
6月	2,142	109	42	2,293	80	18	3	824	128	41
7月	2,159	95	40	2,295	83	20	2	798	126	38
8月	1,972	99	42	2,112	83	16	3	844	128	36
9月	2,056	95	42	2,192	84	21	3	817	141	33
10月	2,425	99	50	2,575	91	24	3	853	134	32
11月	1,951	92	43	2,086	81	17	3	815	130	31
12月	2,073	74	44	2,191	69	16	3	800	127	36
2012年1月	1,931	84	42	2,057	66	15	3	787	122	34
2月	1,832	87	42	1,961	64	18	3	773	124	33
3月	2,316	94	49	2,459	77	18	3	878	142	35
4月	2,212	103	45	2,361	59	18	2	768	111	34
5月	2,051	92	43	2,186	81	18	4	792	126	37
6月	2,046	102	45	2,194	76	15	4	775	124	31
7月	1,911	100	40	2,051	85	17	5	800	117	27
8月	1,789	85	38	1,912	77	14	5	778	120	61
2012年累計	16,088	747	345	17,181	587	134	28	6,352	986	293
前年同月比(%)	-9.3	-14.5	-8.7	-9.5	-7.3	-12.8	64.5	-7.8	-6.4	70.4

	消費										月末在庫		
	製鋼用						製鉄用		合計				
	転炉			電炉			フェイメイ用	その他		炭素鋼	合金鋼	銑屑	
炭素鋼	合金鋼	銑屑	炭素鋼	合金鋼	銑屑	焼結用	その他						
09年	9,248	368	262	17,966	1,438	503	29,790	254	581	30,601	2,625	333	215
10年	12,701	537	299	22,291	2,018	563	38,408	550	567	39,536	2,360	374	191
11年	10,376	575	268	23,433	2,090	501	37,246	473	447	38,171	2,964	429	255
前年比(%)	-18.3	7.1	-10.4	5.1	3.6	-11.0	-3.0	-14.0	-21.2	-3.5	25.6	14.7	33.5
2011年1月	1,068	52	26	1,844	171	42	3,204	62	34	3,300	2,160	366	167
2月	988	45	20	1,893	176	45	3,167	38	30	3,235	2,218	370	190
3月	1,035	47	26	1,909	177	42	3,236	47	35	3,317	2,509	395	194
4月	884	53	21	1,979	178	39	3,155	27	38	3,221	2,625	391	198
5月	805	47	21	2,105	172	39	3,189	21	30	3,240	2,477	403	200
6月	896	51	22	1,930	189	41	3,130	48	50	3,229	2,484	400	209
7月	918	54	24	1,827	179	39	3,041	42	40	3,124	2,610	396	211
8月	863	45	24	1,742	160	35	2,869	59	36	2,965	2,695	417	219
9月	851	47	23	1,964	181	42	3,108	39	38	3,186	2,641	428	220
10月	815	46	23	2,166	178	46	3,274	50	42	3,367	2,825	434	223
11月	651	45	18	2,097	173	47	3,031	25	40	3,096	2,756	436	220
12月	602	43	20	1,977	157	43	2,843	15	34	2,892	2,964	429	255
2012年1月	661	44	22	1,884	163	37	2,811	15	31	2,857	3,057	423	236
2月	675	48	19	2,036	163	44	2,984	26	34	3,044	2,860	420	240
3月	712	44	27	2,193	171	46	3,193	12	38	3,244	3,070	440	241
4月	756	46	18	2,118	177	44	3,159	38	38	3,235	3,058	428	246
5月	769	50	21	2,145	161	43	3,190	35	41	3,267	2,908	432	251
6月	769	58	19	2,147	179	42	3,215	17	41	3,274	2,753	419	259
7月	774	41	21	1,925	164	39	2,965	26	78	3,069	2,659	410	259
8月	811	54	23	1,720	151	38	2,797	22	40	2,859	2,607	405	258
2012年累計	5,928	386	171	16,168	1,328	332	24,314	191	341	24,849	22,972	3,377	1,990
前年同月比(%)	-6.0	20.8	-5.8	-1.3	-5.5	7.6	-2.5	-62.7	11.1	-3.6	-3.2	-2.9	17.9

出所:経済産業省 鉄鋼・非鉄金属・金属製品統計月報(単位:1,000ト)

<Web 閲覧システムには11月9日17時01分に掲載>

ENRC社、2012年7-9月期の鉍石・合金鉄生産量

= Cr 鉍石 100.6万トと増産、Mn 鉍石は 31.3万トで前年同期比減

ENRC社(Eurasian Natural Resources Corporation PLC)の2012年7-9月期生産量が8日発表された。このなかで同社の鉍石部門(クロム鉍石・マンガン鉍石・鉄マンガン鉍石)と合金鉄部門(フェロクローム、フェロシリコクロム、シリコマンガ、フェロシリコン)の生産量は別表の通りである。

【鉍石部門】

7-9月期の販売可能なクロム鉍石は総生産量100.6万ト(前年同期比9.2%増)で、これには同社合金鉄部門向け(77.1万ト)も含まれる。

マンガン精鉍は総生産量31.3万ト(同12.8%減)だったが、市場の需要変化に伴って前期比では15.5%の増産となった。この総生産量にも自グループ内向け(8.2万ト)が含まれる。鉍石の採掘量・処理量とも前期・前年同期を上回ったが、精鉍の生産量では前年同期を下回った。

輸出向けマンガン精鉍が主体のZhairm GOKでは16.4万ト(Mn34.1%、前年同期比15.0%減)の生産となり、Aksu合金鉄工場(SiMn生産)にマンガン精鉍を供給するKazmarganetsでは14.9万ト(Mn38.6%、同10.2%減)となっている。

【合金鉄部門】(Serovの生産分を含む)

合金鉄部門の総生産量は44.0万ト(前年同期比0.5%増)で、このうちグループ内向けが5.9万トだった。このため販売可能な合金鉄の生産量は38.1万ト(同横ばい)になっている。前年同期と比べ、フェロクロームの高炭素品は増産、中炭素品が減産、低炭素品は増産、フェロシリコクロムとフェロシリコンは増産になった。シリコマンガは減産だったが、これは当期にAksu工場の13号炉で大規模な修理を行ったためだ。また、Serovの販売可能な合金鉄生産量は5.7万ト(内数)であった。各アイテムの生産量は別表の通り。

【その他非鉄部門】コバルトの生産量は、鉍石(RoM)32.7万ト(前年同期比35.1%増)、コバルト2,230ト(同28.0%減)、コバルト品位は1.27%と報告されている。DRCとザンビアでの電力供給制限と、Chambishiでの内部消費が多かったためだ。

(T. 齊藤)

別表：ENRC社の2012年7-9月期Mn・Cr鉍石、合金鉄生産量

(単位：千ト、マテリアル量)

	2011年 10-12月期	2012年 1-3月期	2012年 4-6月期	2012年 7-9月期	2011年 7-9月期	前年 同期比(%)
Ore Mining and Processing (Saleable ore production)						
・Chrome ore	762	755	974	1,006	921	9.2%
・Manganese ore	197	176	271	313	359	-12.8%
Ferroalloy Production (Saleable ore production)						
・Ferro-chrome	294	295	300	311	317	-1.9%
High Carbon	259	261	264	275	281	-2.1%
Medium Carbon	13	13	12	13	14	-7.1%
Low Carbon	22	21	24	23	22	4.5%
・Ferro-silico-chrome	21	23	19	20	15	33.3%
・Silico-manganese	36	46	47	38	47	-19.1%
・Ferro-silicon	10	12	12	12	11	9.1%
Total ferroalloys	360	375	377	381	389	-2.1%
Other Non-Ferrous						
・Cobalt	2,583	2,736	2,615	2,230	3,099	-28.0%

r: 修正

新日鐵住金の中間期連結操業実績

= 国内建設、自動車向け需要は堅調に推移

新日鐵住金が9日発表した2012年度中間期(4-9月)連結操業実績によると国内需要家の海外シフトが継続し、造船向けが大幅に減少したものの、建設、自動車向けは堅調に推移し、生産量は一定量を維持した。海外向けは全体に景気減速感が強まり、さらに歴史的な円高が影響し一段と厳しい環境が続いた。

両社統合前の上期操業実績(連結ベース)で粗鋼は新日鉄 = 1681万ト(前年同期比1.2%増)、住友金属 = 653万ト(同5.3%増)と両社ともに増加した。両社合計で2334万ト(同2.3%増)だった。住金は上期、鹿島製鉄所の高炉改修と台風の影響で対前期比では粗鋼は減産となった。

また、上期の鋼材平均販売価格は新日鉄 = 7万7800円(同11.4%減)、住友金属 = 9万4500円(同10.4%減)だった。

新日本製鉄の操業実績

		上期			下期			合計
		4-6月	7-9月	計	10-12月	1-3月	計	
<粗鋼生産>								1,000ト
新日鉄 (単独)	2012年度	7,700	7,950	15,660				
	2011	7,750	7,780	15,530	7,290	7,390	14,670	30,200
	2010	8,000	8,170	16,170	8,040	8,260	16,300	32,470
	2009	4,820	6,730	11,550	8,100	7,850	15,950	27,500
	2008	8,300	8,260	16,570	7,370	4,670	12,040	28,610
グループ全体 (連結)	2012年度	8,290	8,510	16,810				
	2011	8,300	8,310	16,610	7,850	7,980	15,830	32,440
	2010	8,630	8,720	17,350	8,680	8,890	17,570	34,920
	2009	5,370	7,380	12,750	8,720	8,450	17,170	29,920
	2008	9,160	9,060	18,230	7,970	5,040	13,010	31,240
<販売価格>								1,000円
販売価格 (1,000円)	2012年度	80.0	75.6	77.8				
	2011	85.8	89.8	87.8	87.6	81.5	84.5	86.2
	2010	79.1	86.4	82.8	81.4	79.7	80.6	81.7
	2009	88.4	72.7	79.2	72.5	72.7	72.6	75.4
	2008	92.0	108.2	100.2	112.4	108.5	110.8	104.7
<輸出比率>								
金額ベース	2012年度	42.2%	42.0%	42.0%				
	2011	41.9%	40.1%	41.0%	36.9%	37.0%	37.0%	39.0%
	2010	42.5%	38.7%	40.5%	39.8%	40.9%	40.4%	40.4%
	2009	33.1%	38.9%	36.2%	38.8%	41.3%	40.1%	38.4%

住友金属の粗鋼生産

		上期			下期			合計
		4-6月	7-9月	計	10-12月	1-3月	計	
<粗鋼生産>								1000ト
粗鋼生産 (単体)	2012年度	3,070	3,380	6,440				
	2011	2,770	3,340	6,110	3,250	3,360	6,610	12,720
	2010	3,350	3,430	6,780	3,000	3,130	6,120	12,920
	2009	2,280	2,790	5,070	3,260	3,370	6,630	11,650
	2008	3,500	3,540	7,040	3,360	2,480	5,840	12,870
粗鋼生産 (連結)	2012年度	3,100	3,430	6,530				
	2011	2,810	3,390	6,200	3,310	3,420	6,730	12,930
輸出比率 (金額ベース)	2012年度	46%	45%	46%				
	2011	49%	42%	45%	40%	43%	42%	43%
<販売価格>								1000円
販売価格 (1,000円)	2012年度	94.7	94.4	94.5				
	2011	104.5	107.3	106.0	103.1	99.8	101.4	103.5
	2010	87.7	95.6	91.6	95.9	97.9	96.9	94.2
	2009	109.4	86.8	96.8	79.0	83.0	81.0	88.0
	2008	110.1	126.9	118.6	130.3	132.7	131.3	124.3

販売価格は単独

<Web閲覧システムには11月9日16時46分に掲載>

N S E N G I、中間期連結決算は増収増益を達成

新日鐵住金エンジニアリング(N S E N G I)が9日発表した2012年度4-9月期連結業績(中間期)によると受注高968億円(前年同期比19.3%減)、売上高1394億円(同44.2%増)、経常損益78億円(同78倍)の増収増益を達成した。

中間期受注額は前年同期の1200億円を下回ったが、通期受注見通しでは2900億円と当初見通しを据え置き、前年度の2377億円を22%上回る見通し。受注高が下半期に集中した点について、東南アジアの石油・ガス関連のジャケットなど海外大型案件の下期への期ズレが影響したとしている。

また、海外受注高の比率引き上げを図っているが、順調に増加しており、中間期で93億円(前年度実績246億円)、通期見通しでは850億円(同585億円)とした。海外比率(通期見通し)は受注高29%(前年度25%)、売上高30%(同24%)。

<Web閲覧システムには11月9日14時05分に掲載>

〔税関別〕2012年9月の生石油コークス輸入実績

財務省の発表によると、2012年9月における税関別・生石油コークスの輸入実績は別表のとおりとなる。

Green Petroleum Coke

Country	Port	Sep / 2012 (Exchange rate 1\$=Yen 78.53)				Jan-Sep / 2012 (Exchange rate 1\$=Yen 79.35)			
		Quantity (MT)	CIF VALUE (Yen 1000)	Average Price		Quantity (MT)	CIF VALUE (Yen 1000)	Average Price	
				Yen/MT	US\$/MT			Yen/MT	US\$/MT
China	Tokyo	2,002	24,729	12,352	157.29	5,002	82,171	16,428	207.03
	Chiba	0	0	-	-	5,000	59,983	11,997	151.19
	Kisarazu	0	0	-	-	33,001	817,509	24,772	312.19
	Onahama	0	0	-	-	1,500	25,934	17,289	217.89
	Himeji	0	0	-	-	11,310	199,235	17,616	222.00
	Fushiki	787	24,351	30,942	394.01	787	24,351	30,942	389.94
	Nagoya	0	0	-	-	11,310	322,356	28,502	359.19
	Tobata	13,000	318,286	24,484	311.77	23,999	628,117	26,173	329.84
	Ube	0	0	-	-	2,968	49,095	16,541	208.46
	Miike	0	0	-	-	264	11,923	45,163	569.16
	Kagoshima	2,071	58,673	28,331	360.76	20,706	602,456	29,096	366.68
Unknown	3,045	88,020	28,906	368.09	10,816	287,895	26,618	335.44	
	Sub-Total	20,905	514,059	24,590	313.13	126,663	3,111,025	24,561	309.53
Taiwan	Hachinohe	0	0	-	-	6,653	76,055	11,432	144.07
	Sub-Total	0	0	-	-	6,653	76,055	11,432	144.07
Myanmar	Unknown	0	0	-	-	501	18,147	36,222	456.48
	Sub-Total	0	0	-	-	501	18,147	36,222	456.48
Canada	Yokkaichi	29,695	290,340	9,777	124.51	97,687	1,003,495	10,273	129.46
	Kanda	0	0	-	-	20,780	256,749	12,356	155.71
	Tobata	9,900	91,539	9,246	117.74	9,900	91,539	9,246	116.53
	Ube	29,702	286,983	9,662	123.04	162,002	1,658,757	10,239	129.04
	Unknown	0	0	-	-	140,987	1,432,792	10,163	128.07
	Sub-Total	69,297	668,862	9,652	122.91	431,356	4,443,332	10,301	129.82
U.S.A.	Tokyo	0	0	-	-	13,072	150,904	11,544	145.48
	Kawasaki	0	0	-	-	244,550	3,107,416	12,707	160.13
	Kisarazu	0	0	-	-	149,603	2,083,057	13,924	175.47
	Kobe	0	0	-	-	548	23,811	43,451	547.58
	Higashiharima	0	0	-	-	29,923	436,458	14,586	183.82
	Fukuyama	52,026	506,990	9,745	124.09	102,350	1,040,522	10,166	128.12
	Sakaide	0	0	-	-	41,663	585,705	14,058	177.17
	Nagoya	20,067	456,215	22,735	289.50	144,805	1,721,835	11,891	149.85
	Yokkaichi	11,000	123,679	11,244	143.18	71,845	801,996	11,163	140.68
	Kanda	0	0	-	-	25,487	314,541	12,341	155.53
	Tobata	0	0	-	-	99,860	1,720,898	17,233	217.18
	Ube	78,505	829,309	10,564	134.52	228,243	2,626,174	11,506	145.00
	Tokuyama	0	0	-	-	1,500	13,671	9,114	114.86
	Oita	75,638	962,436	12,724	162.03	693,093	10,283,151	14,837	186.98
	Tukumi	0	0	-	-	82,071	1,168,202	14,234	179.38
	Nagasaki	0	0	-	-	29	897	30,931	389.81
	Muroran	88,330	995,833	11,274	143.56	237,051	3,088,042	13,027	164.17
Unknown	87,650	924,928	10,553	134.38	786,567	9,919,951	12,612	158.94	
	Sub-Total	413,216	4,799,390	11,615	147.90	2,952,260	39,087,231	13,240	166.85

(次頁につづく)

Country	Port	Sep / 2012 (Exchange rate 1\$=Yen 78.53)				Jan-Sep / 2012 (Exchange rate 1\$=Yen 79.35)			
		Quantity (MT)	CIF VALUE (Yen 1000)	Average Price		Quantity (MT)	CIF VALUE (Yen 1000)	Average Price	
				Yen/MT	US\$/MT			Yen/MT	US\$/MT
Total	Tokyo	2,002	24,729	12,352	157.29	18,074	233,075	12,896	162.52
	Kawasaki	0	0	-	-	244,550	3,107,416	12,707	160.13
	Chiba	0	0	-	-	5,000	59,983	11,997	151.19
	Kisarazu	0	0	-	-	182,604	2,900,566	15,884	200.18
	Onahama	0	0	-	-	1,500	25,934	17,289	217.89
	Kobe	0	0	-	-	548	23,811	43,451	547.58
	Himeji	0	0	-	-	11,310	199,235	17,616	222.00
	Higashiharima	0	0	-	-	29,923	436,458	14,586	183.82
	Fukuyama	52,026	506,990	9,745	124.09	102,350	1,040,522	10,166	128.12
	Sakaide	0	0	-	-	41,663	585,705	14,058	177.17
	Fushiki	787	24,351	30,942	394.01	787	24,351	30,942	389.94
	Nagoya	20,067	456,215	22,735	289.50	156,115	2,044,191	13,094	165.02
	Yokkaichi	40,695	414,019	10,174	129.55	169,532	1,805,491	10,650	134.21
	Kanda	0	0	-	-	46,267	571,290	12,348	155.61
	Tobata	22,900	409,825	17,896	227.89	133,759	2,440,554	18,246	229.94
	Ube	108,207	1,116,292	10,316	131.37	393,213	4,334,026	11,022	138.90
	Tokuyama	0	0	-	-	1,500	13,671	9,114	114.86
	Oita	75,638	962,436	12,724	162.03	693,093	10,283,151	14,837	186.98
	Tukumi	0	0	-	-	82,071	1,168,202	14,234	179.38
	Nagasaki	0	0	-	-	29	897	30,931	389.81
	Miike	0	0	-	-	264	11,923	45,163	569.16
	Kagoshima	2,071	58,673	28,331	360.76	20,706	602,456	29,096	366.68
	Muroran	88,330	995,833	11,274	143.56	237,051	3,088,042	13,027	164.17
	Hachinohe	0	0	-	-	6,653	76,055	11,432	144.07
	Unknown	90,695	1,012,948	11,169	142.22	938,871	11,658,785	12,418	156.49
		Grand-Total	503,418	5,982,311	11,883	151.32	3,517,433	46,735,790	13,287

<Web 閲覧システムには 11 月 7 日 14 時 49 分に掲載 >

H2 輸出商談、東南アジア向けが高値主導

9日に実施された関東鉄源協同組合の入札ではH2落札価格が平均25,643円(FAS)を付け、前月比3,002円大幅に上昇した。大方の予想を上回る高値が飛び出し、マーケットには「久しぶりのサプライズ」(流通筋)と映ったようだ。

流通筋では、上位の応札はインドネシアやベトナムなど東南アジア向け成約を反映したものと見ており、「円安ドル高に加え、ハリケーンの影響で米国スクラップのオファーが上がっているため、足元でH2成約の可能性が高まっている」と説明している。

参考価格として、落札平均から見たFOB換算価格を26,500円と置くと、ドル換算は1ドル=80円の場合で331ドル(FOB)に達する。米大統領選挙後はややドル安が進んでいることから、足元では上記から実質的に2~3ドル高値に振れていると言えるが、今回の落札平均は少なくともドル建て330ドル(FOB)レベルに相当することになりそうだ。

このFOB価格に一般的なフレートを上乘せると、東南アジア引き渡し換算価格は370ドル(CFR)を超える計算となるため、一部の流通筋では、東南アジア向けH2商談は「370ドル(CFR)以上がひとつのターゲット」だと話している。

もっとも「そこまでの高値成約情報は聞かれず、一般的な成約ではない」(流通筋)との声は多い。ただ、他方では東南アジア向け米国産コンテナ積みスクラップでNo.1HMS(80%)とNo.2HMS(20%)のHMSがトータル380ドル(CFR)水準、大型船バルクカーゴでNo.1HMSベース400ドル(CFR)水準のオファーがそれぞれ出ていることから、「米国スクラップ価格との比較では370ドル(CFR)を超えるH2成約があっても不思議ではない」(流通筋)との指摘も聞かれる。

トルコ、9月のソース別原料炭輸入実績

トルコの貿易統計によれば、同国の2012年9月における原料炭輸入量は23万1千トンにとどまり、前年同月の実績を31万5千トン(57.7%)下回った。

ソース別の輸入量は米国が15万4千トン、モザンビークが7万6千トンとなっている。モザンビークから原料炭が輸入されたのは今回が初めてである。詳細は別表の通り。

原料炭輸入	2012年9月			2012年1~9月		
	輸入数量 (MT)	輸入CIF 金額 (US\$1000)	平均価格 (US\$/MT)	輸入数量 (MT)	輸入CIF 金額 (US\$1000)	平均価格 (US\$/MT)
USA	154,213	30,139,145	195.44	1,637,244	354,324,311	216.42
Australia	0	0	-	1,048,731	251,503,738	239.82
Canada	0	0	-	492,763	132,380,713	268.65
Mozambique	76,373	16,268,242	213.01	76,373	16,268,242	213.01
Hong Kong	0	0	-	68,555	12,141,274	177.10
Mexico	0	0	-	57,993	11,008,186	189.82
2012年9月計	230,586	46,407,387	201.26	3,381,659	777,626,464	229.95
2011年9月計	545,163	172,131,904	315.74	2,958,582	763,043,621	257.91
2012-2011	-314,577	-125,724,517	-114.49	423,077	14,582,843	-27.95
12/11 (%)	-57.7	-73.0	-36.3	14.3	1.9	-10.8

<Web 閲覧システムには 11 月 9 日 11 時 42 分に掲載 >

HPCT、10月の石炭輸出は334万トんに増加

豪州Qld州ヘイ・ポイント・コール・ターミナル(Hay Point Coal Terminal:HPCT)の2012年10月における石炭輸出量は333万5千トンに達し、前年同月の実績を69万1千トン(26.1%)上回った。詳細は別表の通り。

Hay Point Coal Terminal

(単位 MT)

	2009暦年	2010暦年	2011暦年	2012暦年	2012-2011	12/11 (%)
1月	1,940,239	3,382,722	1,745,462	3,459,580	1,714,118	98.2
2月	2,591,543	2,542,958	1,908,379	2,528,869	620,490	32.5
3月	2,660,951	1,197,379	2,213,362	1,893,396	-319,966	-14.5
4月	3,119,124	3,024,445	2,448,916	2,278,925	-169,991	-6.9
5月	3,194,716	3,406,422	2,968,835	2,519,037	-449,798	-15.2
6月	2,582,835	4,049,267	2,860,179	2,680,232	-179,947	-6.3
7月	2,286,767	2,567,076	2,367,395	2,287,500	-79,895	-3.4
8月	3,053,296	3,438,350	3,116,161	1,901,900	-1,214,261	-39.0
9月	3,796,533	3,929,594	3,179,994	2,546,959	-633,035	-19.9
10月	2,671,748	3,494,073	2,644,098	3,334,894	690,796	26.1
11月	3,021,977	3,012,350	2,566,974			
12月	3,901,372	2,479,672	2,746,463			
暦年計	34,821,101	36,524,308	30,766,218			
1~10月計	27,897,752	31,032,286	25,452,781	25,431,292	-21,489	-0.1

<Web 閲覧システムには 11 月 8 日 15 時 53 分に掲載 >

DBCT、10月の石炭輸出は486万2千トン

豪州Qld州ダーリンプル・ベイ・コール・ターミナル(Dalrymple Bay Coal Terminal:DBCT)の2012年10月における石炭輸出量は486万2千トンとなり、前年同月より104万3千トン(27.3%)増加した。詳細は別表の通り。

Dalrymple Bay Coal Terminal

(単位 MT)

	2009暦年	2010暦年	2011暦年	2012暦年	2012-2011	12/11 (%)
1月	2,722,285	4,990,404	3,797,038	4,153,437	356,399	9.4
2月	2,447,608	4,005,806	2,653,595	3,991,926	1,338,331	50.4
3月	3,409,965	4,371,835	3,431,501	4,022,630	591,129	17.2
4月	4,043,350	6,005,064	4,468,052	4,368,103	-99,949	-2.2
5月	4,599,196	5,657,671	4,355,597	3,985,363	-370,234	-8.5
6月	4,708,316	6,099,475	4,462,536	4,252,127	-210,409	-4.7
7月	6,034,414	5,100,601	3,884,950	3,739,919	-145,031	-3.7
8月	4,673,921	5,789,302	4,374,917	4,764,366	389,449	8.9
9月	5,186,472	5,550,375	3,922,004	5,577,032	1,655,028	42.2
10月	5,443,722	5,862,904	3,818,600	4,861,851	1,043,251	27.3
11月	5,398,937	5,284,272	4,830,709			
12月	5,484,355	3,982,203	5,311,282			
暦年計	54,152,541	62,699,912	49,310,781			
1~10月計	43,269,249	53,433,437	39,168,790	43,716,754	4,547,964	11.6

<Web 閲覧システムには 11 月 8 日 15 時 54 分に掲載 >

東鉄、10日から全工場で一律500円上げ

東京製鉄は9日、同社田原・岡山・九州・宇都宮の4工場と高松鉄鋼センターで購入する鉄スクラップ価格について、10日購入分から全工場で海上荷と陸上荷ともに全品種ト、当たり500円引き上げることを選んだ。岡山工場の値上げは8月21日以来。

各拠点の特級価格は、田原 = 23,000円(海上・陸上)、岡山 = 23,500円(海上)、23,000円(陸上)、九州 = 23,000円(海上・陸上)、宇都宮 = 24,000円、高松鉄鋼センター(海上・陸上) = 22,000円に改定される。

<Web閲覧システムには11月9日16時37分に掲載>

NSW州、1～8月の仕向け国別石炭輸出

豪州NSW州の2012年1～8月における石炭輸出量は9492万1千トンとなり、前年同期の実績を1214万4千トン(14.7%)上回った。仕向け国別の輸出量は別表の通り。

	2012年1～8月			2011年1～8月			(A)-(B)	(A)/(B) (%)
	原料炭	一般炭	石炭計(A)	原料炭	一般炭	石炭計(B)		
Argentina	0	0	0	0	0	0	-	-
Belgium/Luxembourg	76,979	0	76,979	76,960	0	76,960	19	-
Bosnia & Herzegovina	0	0	0	0	0	0	-	-
Brazil	170,819	0	170,819	72,815	0	72,815	98,004	134.6
Chile	0	0	0	0	0	0	0	-
China	1,674,327	14,775,631	16,449,958	1,037,397	6,186,411	7,223,808	9,226,150	127.7
Croatia	0	0	0	0	0	0	-	-
Denmark	0	0	0	0	0	0	-	-
Egypt	0	0	0	0	0	0	-	-
Finland	0	0	0	0	0	0	-	-
France	0	0	0	0	0	0	-	-
Germany	0	0	0	0	0	0	-	-
Greece	0	0	0	0	0	0	-	-
Hong Kong	0	0	0	0	67,594	67,594	-67,594	-
India	3,679,766	0	3,679,766	3,002,025	73,742	3,075,767	603,999	19.6
Indonesia	0	0	0	0	0	0	-	-
Iran	0	0	0	0	0	0	-	-
Ireland	0	0	0	0	0	0	-	-
Israel	0	0	0	0	0	0	-	-
Italy	0	0	0	159,432	0	159,432	-159,432	-
Japan	7,248,398	38,967,368	46,215,766	7,423,102	33,589,356	41,012,458	5,203,308	12.7
Korea Rep of	1,598,088	12,934,537	14,532,625	2,194,404	12,335,905	14,530,309	2,316	0.0
Malaysia	0	1,399,634	1,399,634	0	1,309,724	1,309,724	89,910	6.9
Mexico	0	1,835,898	1,835,898	0	1,483,463	1,483,463	352,435	23.8
Morocco	0	0	0	0	0	0	-	-
Netherlands	77,095	0	77,095	0	0	0	77,095	-
New Caledonia	0	384,731	384,731	0	329,687	329,687	55,044	16.7
New Zealand	0	0	0	0	30,960	30,960	-30,960	-
Nigeria	0	0	0	0	0	0	-	-
Pakistan	55,000	0	55,000	55,000	0	55,000	-	-
Peru	0	0	0	0	0	0	-	-
Philippines	0	280,873	280,873	0	345,533	345,533	-64,660	-18.7
Portugal	0	0	0	0	0	0	-	-
Romania	0	0	0	0	0	0	-	-
Slovenia	0	0	0	0	0	0	-	-
South Africa	0	0	0	0	0	0	-	-
Spain	0	0	0	0	0	0	-	-
Sweden	57,734	99,811	157,545	0	144,832	144,832	12,713	8.8
Taiwan	1,875,277	6,550,814	8,426,091	1,743,163	9,724,084	11,467,247	-3,041,156	-26.5
Thailand	0	1,147,282	1,147,282	0	1,252,581	1,252,581	-105,299	-8.4
Turkey	0	0	0	138,437	0	138,437	-138,437	-
United Kingdom	0	0	0	0	0	0	-	-
United States	0	0	0	0	0	0	-	-
Vietnam	30,720	0	30,720	0	0	0	30,720	-
2012年1～8月(a)	16,544,203	78,376,579	94,920,782	15,902,735	66,873,872	82,776,607	12,144,175	14.7
2011年1～8月(b)	15,902,735	66,873,872	82,776,607					
(a)-(b)	641,468	11,502,707	12,144,175					
(a)/(b)(%)	4.0	17.2	14.7					

Source:Coal Services Pty Limited

<Web閲覧システムには11月8日10時35分に掲載>

リライアンスP、石炭火力が相次いで運開へ

= 2012年末までに2基が商業運転開始

インドのリライアンスパワー(Reliance Power Ltd., Anil Dhirubhai Ambani Group)が建設した石炭火力発電プラントが2012年末までに相次いで2基立ち上がる。

まず、マハラシュトラ州(Maharashtra)のブティボリ(Butibori)火力発電所の2号機(出力30万kW)が先ごろ試運転を開始しており、今後数週間以内に商業運転を開始する見通しである。同発電所では、1号機(出力30万kW)が稼働中のため、2012年末には2基稼働体制となる。

また、マディーヤ州(Madhya Pradesh)のサザン(Sasan)ウルトラメガ・パワープロジェクト(石炭火力、合計出力396万kW)の1号機(出力66万kW)も、先ごろボイラー点火が完了しており、2012年末までに商業運転を開始できる見通しである。

このため、2012年末までに96万kWの石炭火力が立ち上がることになり、同社の石炭火力の設備容量は246万kWに高まることになる。

なお、リライアンスパワーが建設を計画している石炭火力発電所が全て運開すると石炭火力の設備容量は1764万kWまで増大することになる。(草薙)

Reliance Power Coal Fired Projects

	Name	Completion	State	Capacity (MW)
1	Rosa Stage I (Unit #1&2)	June, 2010	Uttar Pradesh	600
2	Rosa Stage II (Unit #3)	December, 2011	Uttar Pradesh	300
3	Rosa Stage II (Unit #4)	March, 2012	Uttar Pradesh	300
4	Sasan Ultra Mega Power (Unit#1)	December, 2012	Madhya Pradesh	660
	Sasan Ultra Mega Power (#2~6)	By 2014	Madhya Pradesh	3,300
5	Butibori Power (Unit #1)	June, 2012	Maharashtra	300
	Butibori Power (Unit #2)	December, 2012	Maharashtra	300
3	Krishnapatnam Ultra Mega Power	2013 (First Unit)	Andhra Pradesh	3,960
4	Tilaiya Ultra Mega Power	2015 (First Unit)	Jharkhand	3,960
5	Chitrangi Power (Unit #1~6)	By the end of 2013	Madhya Pradesh	3,960
	Total			17,640

<Web 閲覧システムには11月9日10時20分に掲載>

APCT、10月の石炭輸出は112万9千ト

豪州Qld州アボット・ポイント・コール・ターミナル(Abbot Point Coal Terminal:APCT)の2012年10月における石炭輸出量は112万9千トンにとどまり、前年同月の実績を24万トン(17.6%)下回った。詳細は別表の通り。

Abbot Point Coal Terminal

(単位 MT)

	2009暦年	2010暦年	2011暦年	2012暦年	2012-2011	12/11 (%)
1月	1,432,118	1,585,699	1,279,064	1,161,504	-117,560	-9.2
2月	587,282	1,138,956	907,125	865,328	-41,797	-4.6
3月	1,270,040	1,434,804	1,191,718	970,632	-221,086	-18.6
4月	649,462	1,528,073	837,652	1,183,926	346,274	41.3
5月	1,415,669	1,341,154	844,580	1,186,281	341,701	40.5
6月	1,658,998	1,676,054	1,286,483	917,462	-369,021	-28.7
7月	1,583,367	987,324	1,082,351	1,061,932	-20,419	-1.9
8月	1,370,770	1,884,359	1,374,398	1,434,153	59,755	4.3
9月	1,183,230	1,363,228	1,295,225	1,173,161	-122,064	-9.4
10月	1,136,668	1,403,360	1,369,123	1,128,813	-240,310	-17.6
11月	1,206,637	1,397,019	1,150,840			
12月	1,748,184	1,682,031	1,045,067			
暦年計	15,242,425	17,422,061	13,663,626			
1~10月計	12,287,604	14,343,011	11,467,719	11,083,192	-384,527	-3.4

Source:North Queensland Bulk Ports Corporation Limited <Web 閲覧システムには11月8日15時55分に掲載>

豪州の鉄鉱石9月輸出速報

= 西豪州ポートウォルコットの輸出速報

豪州ABS(統計局)が調べた9月の鉄鉱石輸出速報は次の通り。西豪州ポート・ウォルコット(ケーブランパート)港からは653.6万トが輸出された。前年同月比で4.0%減少した。1-9月輸出累計は5565.0万トで、前年同期比0.4%の微減。(次頁につづく)

[ポルトウォルコット(西豪州)]

<塊 鉱 ROM>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	2012年 1-6月	2011年 1-6月	前年 同期比
日本	427,784	508,692	450,113	692,650	418,765	617,560	3,115,564	3,423,832	-9.0%
中国	57,241	279,577	120,789	126,773	128,210	-	712,590	777,412	-8.3%
韓国	-	-	-	-	-	-	-	52,837	-
合計	485,025	788,269	570,902	819,423	546,975	617,560	3,828,154	4,254,081	-10.0%
2011年	554,809	667,285	947,047	419,144	719,386	946,410	4,254,081		
前年比	-12.6%	+18.1%	-39.7%	+95.5%	-24.0%	-34.7%	-10.0%		

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2012年 1-9月	2011年 1-9月	前年 同期比
日本	855,246	499,978	481,004				4,951,792	5,230,871	-5.3%
中国	107,026	117,591	38,912				976,119	1,206,909	-19.1%
韓国	-	-	83,437				-	133,862	-
台湾	-	91,144	-				91,144	-	-
合計	962,272	708,713	603,353				6,102,492	6,571,642	-7.1%
2011年	652,274	775,888	889,399				6,571,642		
前年比	+47.5%	-8.7%	-32.2%				-7.1%		

<粉 鉱>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	2012年 1-6月	2011年 1-6月	前年 同期比
中国	1,447,926	1,945,231	2,073,550	1,820,534	1,436,433	1,436,543	10,160,217	12,769,715	-20.4%
日本	2,518,339	2,548,374	1,606,472	2,410,725	1,844,665	2,731,716	13,660,291	11,582,797	+17.9%
韓国	520,014	1,262,701	892,587	1,112,192	1,098,231	1,025,140	5,910,865	5,943,363	-0.5%
台湾	269,020	369,747	-	238,833	266,292	269,361	1,413,253	1,004,953	+40.6%
オランダ	-	156,246	-	161,074	-	-	317,320	480,609	-34.0%
合計	4,755,299	6,282,299	4,572,609	5,743,358	4,645,621	5,462,760	31,461,946	31,781,437	-1.0%
2011年	4,822,368	3,902,830	6,179,029	5,221,356	5,979,779	5,676,075	31,781,437		
前年比	-1.4%	+61.0%	-26.0%	+10.0%	-22.3%	-3.8%	-1.0%		

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2012年 1-9月	2011年 1-9月	前年 同期比
中国	2,248,526	2,207,010	2,769,009				17,384,762	18,607,791	-6.6%
日本	2,907,019	2,229,052	1,648,228				20,444,590	19,412,941	+5.3%
韓国	1,157,593	923,708	1,209,070				9,201,236	9,048,576	+1.7%
台湾	-	316,633	143,337				1,873,223	1,607,918	+16.5%
オランダ	-	-	163,106				480,426	-	-
ドイツ	163,414	-	-				163,414	-	-
合計	6,476,552	5,676,403	5,932,750				49,547,651	49,318,567	+0.5%
2011年	5,889,343	5,730,488	5,917,299				49,318,567		
前年比	+10.0%	-0.9%	+0.3%				+0.5%		

<合計>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	2012年 1-6月	2011年 1-6月	前年 同期比
日本	2,946,123	3,057,066	2,056,585	3,103,375	2,263,430	3,349,276	16,775,855	15,006,629	+11.8%
中国	1,505,167	2,224,808	2,194,339	1,947,307	1,564,643	1,436,543	10,872,807	13,547,127	-19.7%
韓国	520,014	1,262,701	892,587	1,112,192	1,098,231	1,025,140	5,910,865	5,996,200	-1.4%
台湾	269,020	369,747	-	238,833	266,292	269,361	1,413,253	1,004,953	+40.6%
オランダ	-	156,246	-	161,074	-	-	317,320	480,609	-34.0%
合計	5,240,324	7,070,568	5,143,511	6,562,781	5,192,701	6,080,320	35,290,100	36,035,518	-2.1%
2011年	5,377,177	4,570,115	7,126,076	5,640,500	6,699,165	6,622,485	36,035,518		
前年比	-2.5%	+54.7%	-27.8%	+16.4%	-22.5%	-8.2%	-2.1%		

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2012年 1-9月	2011年 1-9月	前年 同期比
日本	3,762,265	2,729,030	2,129,232				25,396,382	24,643,812	+3.1%
中国	2,355,552	2,324,601	2,807,921				18,360,881	19,814,700	-7.3%
韓国	1,157,593	923,708	1,292,507				9,284,673	9,182,438	+1.1%
台湾	-	407,777	143,337				1,964,367	1,607,918	+22.2%
オランダ	-	-	163,106				480,426	641,341	-25.1%
ドイツ	163,414	-	-				163,414	-	-
合計	7,438,824	6,385,116	6,536,103				55,650,143	55,890,209	-0.4%
2011年	6,541,617	6,506,376	6,806,698				55,890,209		
前年比	+13.7%	-1.9%	-4.0%				-0.4%		

出所: ABS

<Web 閲覧システムには11月9日15時28分に掲載>

BHPB社の中国向けMn鉱石価格、12月積みも横ばい

= 輸入Mn鉱石の港頭在庫も減少、来年1月積みには値上げ予想も

中国からの情報によれば、BHPピリトン社の12月積み中国向けマンガン鉱石価格は11月積みから横ばいで提示された。これで10-12月期中の価格は横ばい推移となったことになる。

具体的には Mn46%塊鉱(GEMCOグレード)がMn1%当たり5.20米ドル、メタラージカル粉鉱石(Mn48%)は同4.75ドル、南アフリカ産低品位鉱石(Mn38-40%)は同4.70ドルで提示されている。

11月6日時点で中国主要港におけるマンガン鉱石の在庫量は228万トン(9月末時点は247万トン)と縮小しており、近く220万トンを割り込むとの見込みも出てきた。このため、各主要港での輸入マンガン鉱石価格には先高の気配が強くなってきている。加えて、市場にはBHPピリトン社が来年1月積みの中国向けマンガン鉱石価格を値上げすると予想する意見も多くなりつつある。(T. 斉藤)

<Web閲覧システムには11月9日14時08分に掲載>

中国国内のフェロシリコン生産量、9月は43.58万トン

= 前月比9%増産、しかし1-9月期は345.75万トンで前年同期比減

中国メディアの発表によれば中国国内のフェロシリコン生産量(Si75%品も含む)は2012年9月に43.58万トンを記録し、前月(40.13万トン)と比べて8.6%の増産になった。7月の落ち込みから回復が続き、6月の水準(約44.7万トン)へと回復してきている。ただし、1-9月期の累計は345.75万トンで、前年同期(439.46万トン)と比べて21.3%の大幅な減産だった。

地区別の生産量ではフェロシリコンの主力生産地である西北地区の内訳が 青海省:13.54万トン、寧夏自治区:7.19万トン、内蒙古自治区:6.57万トン、甘肅省:4.77万トンであり、9月は青海省と甘肅省の増産が寄与している。この両省では水力発電による安価な電力価格が増産の背景となった。また、その他の主要生産地では湖南省は5.43万トン、河南省が1.98万トンと伝えられている。(T. 斉藤)

12年11月7～8日LMEのモリブデン・コバルト価格

LME モリブデン価格

出来高		現物		3ヵ月先物		15ヵ月先物	
		買値(BUYER)	売値(SELLER)	買値(BUYER)	売値(SELLER)	買値(BUYER)	売値(SELLER)
11月7日	封度換算価格	\$ 10.886	\$ 11.113	\$ 10.886	\$ 11.113	\$ 11.111	\$ 11.564
	トン 当たり	\$ 24,000.0	\$ 24,500.0	\$ 24,000.0	\$ 24,500.0	\$ 24,495.0	\$ 25,495.0
11月8日	封度換算価格	\$ 10.886	\$ 11.113	\$ 10.886	\$ 11.113	\$ 11.111	\$ 11.564
	トン 当たり	\$ 24,000.0	\$ 24,500.0	\$ 24,000.0	\$ 24,500.0	\$ 24,495.0	\$ 25,495.0

LME モリブデン在庫 2012年11月8日 120トン

LME コバルト価格

出来高		現物		3ヵ月先物		15ヵ月先物	
		買値(BUYER)	売値(SELLER)	買値(BUYER)	売値(SELLER)	買値(BUYER)	売値(SELLER)
11月7日	封度換算価格	\$ 11.113	\$ 11.158	\$ 11.113	\$ 11.158	\$ 10.489	\$ 10.943
	トン 当たり	\$ 24,500.0	\$ 24,600.0	\$ 24,500.0	\$ 24,600.0	\$ 23,125.0	\$ 24,125.0
11月8日	封度換算価格	\$ 10.705	\$ 10.796	\$ 10.773	\$ 11.000	\$ 10.240	\$ 10.693
	トン 当たり	\$ 23,600.0	\$ 23,800.0	\$ 23,750.0	\$ 24,250.0	\$ 22,575.0	\$ 23,575.0

LME コバルト在庫 2012年11月8日 427トン

<Web閲覧システムには11月9日11時45分に掲載>